



ニーズをつかんだ企画の組み立て

杏林大学医学図書館

諏訪部直子

本日の内容



1. はじめに
2. 杏林大学の紹介
3. 医学図書館の情報リテラシー教育
4. 正規カリキュラムの経験
5. オリエンテーションの工夫
6. まとめ

1. はじめに



- 情報リテラシー教育の悩み
 - 興味を持ってもらえない
 - 居眠り、私語、散漫
 - 教えたことが身についていない
- そんな悩みを解決するための工夫
 - 正規カリキュラムの経験
 - オリエンテーション

2. 杏林大学の紹介

- 4学部
 - 医学部 1970年～
 - 保健学部 1979年～
 - 総合政策学部(旧社会科学部) 1984年～
 - 外国語学部 1988年～
- 大学院
 - 医学研究科、保健学研究科、国際協力研究科
- 看護専門学校 1975年～
- 付属病院 1970年～

2. 杏林大学の紹介 キャンパス



三鷹キャンパス
大学
・医学部 (558人)
・看護専門学校 (307人)
・大学院 (66人)
附属病院 (1,150病床)


八王子キャンパス
3学部
・保健学部 (1,140人)
・総合政策学部 (1,448人)
・外国語学部 (1,330人)
学生数 3,918人
大学院(140人)

教員 931人
職員 1,889人

2. 杏林大学の紹介 図書館

- 八王子キャンパス 2図書館
 - － 保健学図書館 1980年～
(図書94,000冊、雑誌400誌)
 - － 人文・社会科学図書館 1984年～
(図書170,000冊、雑誌300誌)
- 三鷹キャンパス 1図書館
 - － 医学図書館 1970年～
(図書255,000冊、雑誌1,100誌)

3. 医学図書館の情報リテラシー教育 利用者の特徴



- 看護専門学校は3年制、医学部は6年制
- 学生の最終目標は国家試験に合格すること
- 学生に卒論は課されない
- 卒業した後も図書館利用者である

3. 医学図書館の情報リテラシー教育 影響を与える要因

- 医学教育、臨床研修の潮流
 - カリキュラムの改変が進められている
 - 自ら学び育つ能力を養成する傾向
 - チュートリアル教育、Problem-based Learning
 - Evidence-based Medicine
 - 医学情報リテラシーが重要であるという認識
- 情報の増大、複雑化
 - 新しいデータベース
 - インターネット、電子ジャーナル

3. 医学図書館の情報リテラシー教育 様々な工夫

1. 正規カリキュラム 平成15年～
 - 医療科学 医学部2年(現在は3年)前期
 - 1年目の反省と2年目の工夫
2. オリエンテーション
 - 看護専門学校1年生 半日
 - オリエンテーリング方式に

4. 正規カリキュラム 情報検索講義開講の経緯

- 平成18年度のカリキュラム改編
 - － チュートリアル教育の導入
 - － 自ら問題点を見つけ、解決するために「調べる」ことが求められる
 - － しかし「調べ方」を教える科目はない
- 必修科目「医療科学」
 - － 医療周辺に関する事項を教える科目
 - － ここで情報検索を教える

4. 正規カリキュラム 必修科目「医療科学」(H15)

オムニバス形式で様々な専門を持つ複数の教員が担当

1年生	医学的心理学、医療の社会環境、現代医学の源流
2年生	医学情報検索、スポーツ医科学、生命誕生、死生学、健康と疾病の概念
3年生	生命の暗号、こころと治癒力、日本人の死生観、精神と物質、人間らしい死に方
4年生	危機管理、病歴聴取法、医療面接、プライマリ・ケア、症候別診断学、救急災害医療体制
5年生	総合診療、地域医療連携、医薬品臨床治験、医療と法律、医療政策、保険診療

4. 正規カリキュラム 情報検索講義開講当時の状況

- 開講は平成15年度、対象は2年生
 - カリキュラム改編の狭間にある学年への措置として始まる
 - 15年度と16年度に12コマ
- 平成18年度からは3年生対象に8コマ
- 医学教育の中で情報検索を身につけることの重要性が認識されるようになった

4. 正規カリキュラム 図書館担当の概要 (H15,16)

- 科目 医療科学
- 対象 医学部2年生 約90人(必修)
- 目的 医学情報全般と、文献検索の方法を学ぶ
- 時期 前期(4月～7月)
- 担当 図書館員6人
- 所要時間 75分×12回(うち2回は教員担当)

4. 正規カリキュラム 担当するにあたっての思い

- 医師になってから必要に迫られて文献を探しているが、彼らの知識・技術は不十分である
- 図書館としては、これだけは身につけてほしいと思うことが山のようにある
- これからの医師に求められる情報検索・情報の取捨選択の方法を身につけられる内容をめざす

4. 正規カリキュラム 平成15年度の内容 配布資料1

回	医療科学 平成15年度 2年前期 講義予定表
1	小グループ学習演習 教員
2	医学情報の基礎(講義)
3	文献データベース解説(講義)
4	医学情報の入手方法・雑誌の評価(講義)
5	医学中央雑誌、雑誌の評価(講義)
6	医学中央雑誌検索(実習)
7	MEDLINE、PubMed、電子ジャーナル(講義)
8	PubMed検索(実習)
9	情報検索と文献の評価(講義)
10	文献の評価と読み方(小グループ演習)
11	臨床シナリオに沿った文献検索(実習)
12	まとめ 教員

4. 正規カリキュラム 1年目の経験でわかったこと

- 図書館側の期待と意気込みに反して学生のモチベーションは低い
- まだ文献検索の必要性を感じていない
 - 生化学、解剖学などの基礎科目を学習中の彼らにとって臨床で必要になる情報などどうでもいい
 - 専門科目にパスすることで頭がいっぱい
 - 文献検索どころではないらしい
- 一方的に聞くだけの座学はあまり意味がない

4. 正規カリキュラム 平成15年度の反省

- 多くを詰め込みすぎた
 - 盛りだくさんで学生は消化しきれていなかった
- 講義が中心だった
 - 他科目の教科書を開いている人が多かった
- 成績判定の方針が曖昧だった
 - 何を基準に成績をつけるのか、決めていなかった
 - 責任者の教員との連絡不足
 - 宿題を提出する学生はほとんどいなかった
- 図書館側の視点で教えようとしていた

4. 正規カリキュラム 反省を生かした平成16年度の方針

- 焦点を絞る
 - － 目標
 1. 雑誌と図書の違いを理解する
 2. 書誌項目を理解し、正しく記述することができる
 3. 文献検索と所蔵検索ができる
 4. 目的の資料を図書館で探すことができる
 5. 図書館の資料を使って問題を解決することができる
 - － 実習中心にする
 - － 前半5回は図書、後半5回は雑誌に焦点
 - － 使うデータベースを2つに絞る(他は説明のみ)

4．正規カリキュラム 平成16年度の授業


基本的に下記の流れで図書検索と文献検索を行う

- － 1週目 検索実習
- － 2週目 1週目に検索した資料を図書館で探して
問題の答を探す
- － 3週目 講義
- － 4週目 科目と連携したレポート作成
- － 5週目 レポート発表会

4. 正規カリキュラム 平成16年度の内容

医療科学 平成16年度 2年前期 講義テーマと内容
1. 実習 OPAC検索
2. 実習 図書館で資料を探す
3. 講義 ・医学情報の基礎
4. レポート作成 解剖学
5. レポート発表会
6. 実習 医中誌検索
7. 実習 図書館で資料を探す
8. 講義
9. レポート作成 生理学
10. レポート発表会

4. 正規カリキュラム 授業に集中させるための工夫



文献検索の必要性を生み出す
実習課題に重点を置く
他科目との連携を試みる

4-1. 授業に集中させるための工夫 文献検索の必要性を生み出す

- 問題解決型の設問
 - 従来の「～について検索しなさい」「～を検索しなさい」という課題のための課題では学生にとっての必要性は生まれない
 - 検索後、文献にたどり着くという次のステップに進むため、その文献を読まなければ解決できないような設問にする
- 自分でやらなくては終わらない状況を作る
 - 問題をたくさん作り他の人と問題が重ならないようにする

4-1. 授業に集中させるための工夫 文献検索の必要性を生み出す

- 検索実習

- 問題解決型の課題を与える(配布資料2)
 - 検索した中から、適切な文献の書誌事項を数件記入
 - 図書、雑誌文献検索とも、同じ問題にあたるのは2人以内
- 問題例
- 「慢性閉塞性肺疾患の国際診療ガイドラインは何年にどの機関から発表されたか。」
- スタッフ6人で課題問題を作成
 - 図書、雑誌を見ながら作成
 - 確認のため、他の人が作った問題を互いに解いてみた

4-1. 授業に集中させるための工夫 文献検索の必要性を生み出す

- 問題の答を資料の中から見つける
 - 前週に検索した図書・雑誌を図書館の書架で探す
 - 資料の中から問題を解決する記述を探す
 - 答がなければもう一度検索
 - 答を解答用紙に記入
 - 解答用紙と、探した資料、記述箇所を図書館員に提示する

4-1 授業に集中させるための工夫 実習課題に重点を置く

- 課題を採点し、その点数を成績に反映させる
- 課題は授業時間内に提出させる
- 時間内に終わらず、仕上げてから提出したいという学生には
 - 意欲を認め、翌日を期限とする
 - 時間内に提出した学生と差をつけるために点数をマイナスする

4-1授業に集中させるための工夫

他科目との連携

- 従来の文献検索教育の問題点
 - 文献検索のテクニカルな部分だけを教えても、日々の勉強とどう関係するかがわかりにくい
 - その結果、興味が持てずモチベーションが低くなる
- 学生がそのときに学んでいる科目と文献検索を関連づけければいいのではないかと考えた
 - そのために必要なことは
 - 何をどのように学んでいるのかを知る
 - その科目を担当している教員の協力

4-1授業に集中させるための工夫

他科目との連携

- シラバスをチェックしてわかったこと
 - 2年生は4月～9月、ほぼ毎日午後に解剖学実習
 - 9月中旬以降はほぼ毎日生理学の講義と実習
- 教員へのヒアリングでわかったこと
 - 解剖学では実習レポート、ミニテスト、その他の課題を出す
 - 生理学では、実習前に読むことを義務付けている資料を読まずに実習にのぞむ学生が多く、すぐに実習に入れない
- 解剖学、生理学の教授に相談し、協力を取りつけることに成功

4-1 授業に集中させるための工夫 他科目との連携

- 授業と連動した内容のレポート課題
 - レポート作成の過程で、文献検索と書誌事項の記入をさせる
 - レポート発表の時間を作り、教員も出席して採点に協力
 - レポートの採点結果を成績に反映させる

4-1授業に集中させるための工夫

他科目との連携 解剖学 配布資料3

- 宿題として出している課題の過去問題を当授業のレポート問題として使わせてもらう。
- 解剖学実習とミニテストのスケジュールに合わせ、その時期の内容と合った問題を出した
 - 解剖学教員からスケジュールの詳細をもらって確認
- 調べる過程で図書検索を行い、出典を記入させる

4-1授業に集中させるための工夫

他科目との連携 生理学 配布資料4

- 後期に始まる筋電図実習に先立ち、必要な基礎知識を得られるような課題とした
 - 教員にもメリット
- 図書、雑誌文献の両方を使うように問題を工夫した

4-1 授業に集中させるための工夫 他科目との連携 終了後報告

- 原論文を見ながらレポートをまとめている人が多く、検索した文献の現物を探すことが普通にできるようになったようである。
- 生理学はOPAC、医中誌、図書、雑誌、とこれまで教えたことを全て使って仕上げるレポートだったので、総まとめという意味で良かった。
- 実習に必要な知識を事前に学ぶことにより、学生の理解度が高まり、スムーズに実習に入れるので助かるというコメントを教員からいただいた。

4. 正規カリキュラム 医療科学その後

- 平成18年度からは3年生が対象
- 科目との連携は「薬理学」 配布資料5
 - 教員から、例年よりも実習での学生の理解度が高いという報告があった

4. 正規カリキュラム 科目との連携の効果

- 利用者(学生)を知ることにつながる
 - 図書館サービスの基本
- 教員とのコミュニケーションが増し、信頼関係が形成される
- 教育に役立っているという実感が得られる

5. オリエンテーションの工夫

- 従来のオリエンテーション
 - 看護専門学校新入生(100人)対象に半日
 - OPAC検索 70分
 - サービス説明 35分
 - 館内ツアー 35分
- 学生の反応
 - アンケート結果より
 - OPACは便利でためになると感じている
 - サービス説明は退屈
 - 館内ツアーは、上階から下階まで連れ回されて疲れてしまう
 - 時間が長すぎる

5. オリエンテーションの工夫 2007年度の試み

- OPAC検索は時間を短縮 45分
- 説明はごく簡単に 15分
- 「オリエンターリング形式」を採択 45分
 - 館内の要所に説明のポスター掲示
 - その中に、サービスやルールの説明を入れる
 - 簡単な説明の後、学生に館内図と問題を渡す
 - 学生は図書館内を探索しながら問題に答える

2F 新着図書棚

- 図書館で受入れたばかりの図書を1週間展示しています。
- ここにある資料の貸出期日はオーバーナイト(翌日まで)となります。
- 展示して1週間たったら、書架の所定の場所に入り通常の貸出ができるようになります。
- 原則として毎週火曜日に入れ替えます。



5. オリエンテーションの工夫 2007年度の試み

- 問題例

- 新着図書の貸出期間はどれくらいですか？
- ブラウジングコーナーにある新聞の名前をひとつ記入してください
- 次の図書には含まれたカードに書かれているメッセージを記入してください

請求記号: QY17:A94
書名: ケアってなんだろう
著者: 小沢勲
出版社: 医学書院
出版年: 2006

5. オリエンテーションの工夫 2007年度の試み 結果

- アンケート結果から
 - 宝探しをしているようで楽しい
 - 答えが見つかったときうれしい
- 教員の反応も好意的
- 図書館として
 - 事前準備が大変
 - 館内ツアーがなくなり、当日が楽になった
 - 学生が積極的に参加しているのでやりがいがある
 - 十分に説明できていない部分もあるが、これでよしとする

6. まとめ



- 学生のニーズを把握する
- 学生が「参加」できる工夫する
- 事前の準備に力を入れる
- 教員とコミュニケーションをとる
- アンケートをとって次に生かす